

1. 本校における自己点検・自己評価についての取り組み

本校は自己点検・自己評価を取り組み、学校の質保証・向上の推進をめざしている。自己点検・自己評価は、学校の教育の関する現在の状況を基準に則って評価することにより、改善すべき点を明らかにして、質を向上させる（PDCAサイクルの活用）機能もある。学校が評価した結果について、さらに学校評価委員会の評価を受けて、改善すべき点の示唆、助言から取り組むとする。

2. 自己点検・自己評価結果

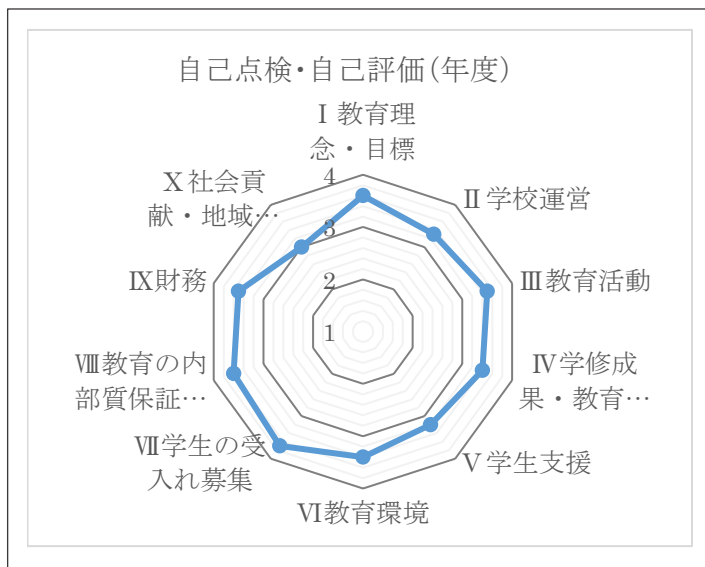
教職員回答率 62.5%

1) 大項目評価の平均値

評価基準：評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

領域	項目	2022年度	2021年度	2020年度
I	教育理念・目標	3.6	3.5	3.5
II	学校運営	3.3	3.2	3.2
III	教育活動	3.5	3.0	3.4
IV	学修成果・教育効果	3.4	3.4	3.0
V	学生支援	3.2	3.0	3.1
VI	教育環境	3.4	3.4	3.4
VII	学生の受入れ募集	3.7	3.4	3.3
VIII	教育の内部質評価システム	3.6	3.2	3.3
IX	財務	3.5	3.6	3.6
X	社会貢献・地域貢献	3.0	2.9	2.8

図1 大項目レーダーチャート



教職員の自己点検・自己評価について回答率が低い。新規採用、育児・介護休暇、退職などにより回答する教職員は減少しているが、在職する教職員の評価であっても回答率が低く、学校評価の意義の再確認が必要となる。令和4年度年度末評価の結果は、レーダーチャートに示すように大項目評価において概ね良好である。領域I～Xの平均3.4である。平均より下回っているのは学校運営、学生支援、社会貢献・地域貢献である。評価の高い学生の受入れ募集は、看護学校を志望する高校生・社会人の減少に伴い、ホームページを見やすくし、たり、広報活動に力を入れた結果である。

2) 領域評価

I. 教育理念・目標 評価3.6

カリキュラム改正に伴い、全学生に令和4年度の学生便覧を配布し、アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーの説明を行い、学生便覧に学校の規則、ルールを示していることを理解してもらった。校舎入口に理念から目標、3つのポリシーを掲げていることをアピールした。しかし、学生の評価は3つのポリシーについて、19%があまりそう思わないと回答し、社会的ニーズに対応する教育を実施しているが、そう思う、ややそう思うで98%と高い回答である。学生にとって学校の理念が本校の目指す方向であることを理解してもらうことで自己の達成感にも反映するため、校舎内に入口と同様に掲示して日々見てもらう工夫と学校行事やホームルームで周知する。

<p>II. 学校運営 評価 3.3</p> <p>評価の低いのは4-7 教育の成果に基づく面接、4-9 専門能力開発の計画である。管理者の役割である学習成果については課題とする。また人事評価についても就業規則の改定が行われているが、全職員へ改定後の就業規則の等級・評価・報酬等が周知されていない。全職員が共有できる機会を設ける。</p>
<p>III. 教育活動 評価 3.5</p> <p>学生による授業評価の結果、改善項目について検討する。新カリキュラム新設科目については、授業評価の結果、教育内容の精選、教育内容にあった講師の選定し交代した。継続して授業評価を実施する。授業観察は、その領域のリーダーに任せている。教員の質保証の観点から定期的な授業観察を実施する。</p>
<p>IV. 学修成果・教育効果 評価 3.4</p> <p>令和4年度の看護師国家試験は〇〇%合格率であり、就職率も100%である。保健師・助産師への進学、学部への編入(3名)、県外就職(13名)・県内就職(67名)である。令和3年度卒業生の退職者は新たな施設に就職し看護師を続けている。入職して思っていた以上に厳しい現実に耐えられない、また新人に対する教育の希薄さ等から退職した卒業生の支援の方法を検討していく。</p>
<p>V. 学生支援 評価 3.2</p> <p>就職に関する体制、学生相談に対する体制は窓口を学年担当とし、経済的支援の体制は情報の発信、相談体制を整えている。奨学金は職業訓練給付金、沖縄県の奨学金、中部地区医師会立の奨学金(今年度4名に給付)は活用できている。保護者との連携は学校生活への適応や成績不振、単位未履修の学生について早めに行っている。休学2年生3名、退学2名、復学4名となる。新カリキュラム施行の1年生は、学校評価の中で時間割の組み方や課題への要望が多々見られた。卒業生の状況はホームカミングだけでなく、各期の卒業生に情報発信ができる窓口(連絡係)を設置していく。</p>
<p>VI. 教育環境 評価 3.4</p> <p>教育上必要な施設、設備は十分対応できるように整備している。学内の整理・整頓・清掃については、5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を推奨していく。学期末、行事ごとに学生の清掃の割り当てを行っているが、学校生活のなかで日々環境整備を意識できるよう躰を強化していく。</p>
<p>VII. 学生の受入れ募集 評価 3.7</p> <p>令和4年度の学校行事は感染対策をふまえながら、学生会、実行委員会の意見を組み入れ可能な限り開催することにした。学生の学校評価では、学校行事の開催を望む回答が見られた。ホームページもより見やすいよう改良し、進学ガイダンスも可能な限り参加した。令和5年度入学試験志願者は、現役高校生168名、既卒42名の210名である。前年度より22名の減少である。志願者増への取り組みは継続し、ぐし看ならでの取り組みを検討する。</p>
<p>VIII. 教育の内部質評価システム 評価 3.6</p> <p>看護師養成所指定規則を遵守したうえでの教育内容や方法の見直し、実習施設の要件整備を行い県から認可を得た。自己点検・自己評価を全教職員で行い、学校関係者評価の実施、公表までの取り組みを行い、広い視野からの学校運営の示唆、支援をいただいている。今年度は自己点検・自己評価の回答率67%と低値であり、時期、方法を検討する。</p>
<p>IX. 財務 評価 3.5</p> <p>設置主体の総会において年度予算、中期計画が目的・目標、計画に従って執行されていることが総会の場で承認されている。設置主体は経営・業務改革などリーダー、フォロワーなどの中心となる人材の育成に力を入れている。</p>
<p>X. 社会貢献・地域貢献 評価 3.0</p> <p>学校の教育資源や施設の活用は、実習施設から新人教育に使う模型や人形の貸出を行っている。地域貢献は駐車場として使用している公民館の草刈り清掃を行った。地域・在宅看護論ではうるま市はじめ学校近郊の市町村へ公民館を中心にフィールドワークに出かけ地域の方々とのかかわりを持ち、地域・在宅看護論実習では健康づくり体操やゲームに参加している。科目を通して対外的な交流が出来たらよい。学校主催の研修会には実習施設の実習指導者を招待し実習指導について学びの共有を行っている。</p>